第 21 回日本生殖看護学会　学術集会
0-5
福井、2023.9.3

不妊治療終結期の支援充実と看護師の精神的負担の軽減を目指して
～動画学習による看護教育の効果の検討～
Video Learning Effectiveness in Nursing Education: Improvement of Support during the Final Stage of Infertility Treatment and Nurses' Psychological Burden

池田美果、太田恭子、浅井麻利子、皆吉田津子、中岡義晴
医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

【諸言】不妊治療終結期(以下終結期)の患者への関わりは、十分な経験や力量が必要であり、看護師の多くが精神的負担を抱いている。今回、動画学習による看護教育を行い、教育前後の看護支援の実際と看護師が抱く精神的負担について比較、検討した。
【方法】2021 年 3 月 A クリニック看護師 19 名に、終結期における看護支援の実際と精神的負担について無記名自記式質問紙調査を行った。2022 年 6 月から 7 月、患者が終結期に至るまでの受容段階と意思決定プロセス・支援方法についてのロールプレイ動画を配信した。同年 9 月より学習した内容を踏まえて看護を実践し、翌年 1 月に学習前と同内容を含む無記名自記式質問紙調査を行った。調査は任意回答とし、個人が特定できないよう倫理的配慮を行った。
【結果】終結期で難しさを感じる頻度について「いつも感じる」12 名から 4 名、「時々感じる」5 名から 14 名と顕著な変化があった。対応時に抱いた不安について、学習前は「患者の求めている対応ができているか」13 名（68%）、「自分の対応に対する患者の反応」11 名（57%）が多数だった。学習後は、「方向性が定まらずに悩んでいる患者の対応」12 名（60%）が多数であった。
　学習後「終結期患者のプロセスを知り、アセスメントに必要な視点を学べた」「色々な場面の解説があり、必要な関わりが明確化した」等の回答があり、看護支援については「動画でイメージが湧いた」「漠然とした不安がなくなった」「「受容段階を意識して関わった」「個々の対応を心掛けた」等の回答があった。
　対応時のストレスについては、「非常に感じる」3 名から 1 名、「多少感じる」13 名から 13 名、「ほぼ感じない」0 名から 6 名、「全く感じない」3 名から 0 名に変化した。
【考察】　看護教育を行ったことで思考と行動が変容し、看護支援の充実と看護師の精神的負担の軽減に繋がった。特に精神的負担について、学習前は知識や力量不足といった看護要因に対し、学習後は患者の意思決定プロセスを理解した上での支援の難しさといった個別的な患者要因へ移行した。さらに、具体的な関わり方を意識することで新たな精神的負担が生じた可能性も示唆されることもわかった。
【今後の課題】看護支援の向上と充実を図るためには、多様性を顧みつつより個別性に応じた看護支援に関わる教育を継続していくことが必要である。